

巻頭言

小さなことは大きなこと
自分なりの振り返り

同窓会会長 高橋 伸治
教育後援会会長 今村 泰治

4

起業・事業創造にむけた本学の教育・研究

● 起業と中小企業の事業創造
（知見や実績を授業等に伝わり易く落とし込む）

商経学部教授 松下 幸生

6

● 学生経営者の挑戦

商経学部経営学科3年 桂川 幸二郎
サービス創造学部2年 鈴木 修造
商経学部経営学科4年 桑島 歌菜

11

特集 2

「同窓会東京支部」の新たな取り組みと実践

変わる時代、変わらぬ問い——奥寺ゼミの現在地

東京都支部長 堀内 喜司夫
商経学部教授 奥寺 葵

17

学生活動紹介

CUC釣りサークル

商経学部経営学科3年

小幡 大貴

18

■ ニュース・イベント

「MOS世界学生大会2025」エクセル部門に入賞／第170回日商簿記
検定試験1級に10名が合格／佐藤晃介さんにスポーツ奨励金を交付／ほか

19

■ 学生開発商品のご案内

大木戸さつまいも焼酎「遙陽」／大木戸さつまいもジェラート

22

■ キャリア支援センターニュース

Believing bright future & down-to-earth
——輝く未来を信じて、着実に——

キャリア支援センター長 川 瀬 功

23

CUCレポート

■ 地域連携推進センターニュース

CUCキッズ大学サマースクールの開催／
キッズビジネスタウン®いちかわ（ミニKBT）の開催

26

■ 創立100周年CUC未来奨金／寄付者芳名録（2024年度）

29

■ 大学創立100周年実行委員会・各分科会からのお知らせ

32

■ 特別企画 創立100周年にむけて 第7回「橋を見て思うこと」

社会連携推進課 伊藤 雅敏

34

■ The University DINING レポート 店内はシーズナルイベントで盛り上がりました／ UD LIVE「Forest of Harmony」／ほか ■ 文化団体連合会・体育会所属各部の活動近況 36	■ 教育後援会活動 保護者LINEについて(登録のお願)／2025年度保護者ニーズ調査の実施 について／教育後援会地区懇談会(CUC保護者会)の開催について／2024 年度教育後援会事業報告／ほか 40	■ 活躍する卒業生 人間万事塞翁が馬 …沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり… 有限会社アキタエージェンシー代表取締役 昭和53年 商経学部商学科卒業 小野 隆一郎 46	■ 本部からの報告 ■ 支部からの報告 北海道・千湯 康成／秋田・笹岡 義春／福島・遠藤 久志／茨城・嵯峨 光二／ 埼玉・櫻井 栄治／千葉・村田 三七男／東京・堀内 喜司夫／神奈川・國分 正彦／ 高知・高橋 淳一／香川・平尾 享史／加藤 潤一／Dプロック・平尾 享史 46 会・榊田 均／斯心寮OB会・鈴木 実／硬式野球部・鈴木 茂 平9 商 金光 敦彦 平10 経営 塩野 大輔 68 67 62 50 50	■ 同窓会活動 同期会・その他からの報告 ■ 同窓生寄稿 同窓生のお宿・お店紹介「四川料理 剣閣」 CUC 経営者会議 ニュース 2025年度総会等を開催(新規会員について・2024年度事業報告 および決算書・2025年度事業計画および予算書) CUC 経営者会議事務局 (社会連携推進課) 69	■ 随筆 同窓会青森県支部50年の歩みを振り返る 最初で最後の電車 定年退職後趣味の活躍 昭45 商 阿達 福壽 昭47 経済 池野 辺修 昭46 経済 林 利夫 75 77 78	■ 著書紹介 隆起サンゴ礁島の環境史 沖縄・八重山諸島の地域コミュニティと土地制度 人間社会学部准教授 藤井 絃司 80	▼第55期同窓会維持会費納入者(第3回)一覧 81 ▼同窓会役員および支部事務局一覧 82 ▼編集後記 84
---	--	--	--	--	--	---	---

小さなことは大きなこと

高橋 伸治

● 同窓会会長
(昭52商)



技術開発が進み、新しい動きが世界を覆っています。いかなる組織でも変化を当然として、自ら変化を生み出さなければならぬ時代を迎えています。そのなかで、「変化を機会と見るか」と「変化を危険と見るか」の差は、これからの人生を大きく左右します。自分の価値観と違う意見にも耳を傾ける意識を持つことが大切です。日常的に小さな新しいことに触れる習慣をつくりましょう。周囲を想像する力は周りの人たちに対する思いやりの力であり、人を思いやる力は人間関係を豊かにします。

千葉商科大学も時代の流れを的確につかみ、大きく変わろうとしています。学びとは「自分の法則」をどんどん作っていくプロセスなのです。経験や知識を増やしながら、「昨日よりも良い今日」を積み重ねることが重要です。こんな「小さなこと」で人間の印象が決まります。適切に言語化することが重要です。し、30代になって成果が乏しいと、それから新しい知り合いをつくることも難しくなります。

私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織および会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。人生のライフスタイルが大きく変わり、生涯現役時代に対応した組織にしなければなりません。私たち同窓会は、すべての同窓生が集い、「高いコミュニケーション能力を養う場所」にしなければなりません。大切なことは、みんなで作り上げるという視点です。皆さんが持っているアイデアを実現させていくためには仲間が必要です。その人間関係がアイデアをもたらしてくれるのです。

千葉商科大学も大きな一歩を踏み出しました。「行動」することで、さまざまな「刺激」を受け、「思考」が深まります。私たちも、小さな一歩がないと大きな夢にはたどり着けません。何事においても今すぐできることは、いっぱいあると思います。年をとるとは、変化することです。



千葉商科大学
同窓会
公式Webサイト
二次元コード

「同窓会東京都支部」の新たな取り組みと実践



東京都支部長
(昭47短大)

堀内 喜司夫

と期待を寄せてくれたことです。

■新たな50年へ！ 次世代グループ（必勝会）と

江戸川グループ（東京江戸川瑞穂会）の発足！！

同窓会東京都支部の特徴として、平成・令和の卒業生（次世代グループ）は東京都の職域が多く、日頃から「サークル」や「同好会」などの人脈があり、現在、次世代グループの中核「国府台フォーラム」とも協力し、東京都支部会員の増強につながっていることがあります。

また、「必勝会」（代表・金光敦彦氏）も、毎月の定期勉強会を軸に、参加者（最大10名）が石井サービス創

昨年6月、「同窓会東京都支部」は50周年を記念する定期総会を上野精養軒にて盛大に開催することができ、新たな出発をしました。また、記念祝賀会において、50年の意義を書き留める「50周年記念誌」を発刊しました。新型コロナウイルス感染症の影響による3年間の活動中止のなか、歴代役員や大学関係者の皆さまをはじめ、構成から原稿依頼、編集校正などに携わった皆さまのご協力とご尽力に心より感謝申し上げます。

また、何より嬉しいのは、世代を超えて「これからの支部活動」への思いを寄稿してくれた現役員・幹事の皆さまが、「これからの同窓会の交流が楽しみ」

造学部長の講義を受講。20名参加を目標にメンバーを拡大中です。また、東京都支部活動の「新たな東京再発見ぶらり旅」の企画・運営や年2回発行の「支部報」の編集や印刷・配信にも新たな人材が活躍しています。(P.67に「必勝会」金光代表の寄稿を掲載)

次に、江戸川グループは、同窓会長の高橋伸治氏からの提案を受け、昨年秋季に江戸川区内の小松川信用金庫会長・高橋桂治氏を発起人とする「東京江戸川瑞穂会」を発足しました。7月に約30名が参加し、第1回の総会を船堀タワーホテルで開催しました。東京都支部との交流を深め、都内随一の人数を誇る江戸川区内の同窓メンバーの活躍に期待しています。

■第52回東京都支部総会は、宮崎緑新学長の誕生とともに、同窓会の模範に成長を！

令和7年度「東京都支部定期総会」は、文字通り



江戸川瑞穂会の第1回総会



次世代グループ「必勝会」のメンバー

「新たな東京都支部」のスタートを切る総会になりました(会場・上野精養軒)。参加者52名中、初参加者が10名(大半が次世代グループ)。受付から会場案内、懇親会での「必勝会」メンバーの活躍が光りました。明るく活気ある東京都支部へ！さらなる成長をめざします。

人間万事塞翁が馬 …沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり…

小野隆一郎

有限会社アキタエージエンシー代表取締役
昭和53年 商経学部商学科卒業
本学創立80周年ロゴマーク作品受賞



同窓会総会でのお願いに、お酒の力も味方して、結論として寄稿することになってしまいました。酒も抜け冷静に考えてみたら寄稿するのは「活躍する卒業生」というページ。思い返せば、商大を卒業したのは昭和53年。もう半世紀近くになっています。既に古希を迎え、同期はもうとつくに第二の人生を歩いているのに、現役時代ならまだしも、本当に私で良いのかと恐縮してしまいます。しかしながら、歩みを止めずに駆け抜けてきた社会人生活を、立ち止まって振り返るには、良い機会ではないかと、僥越

ながら筆をとらせていただきました。

昭和53年3月卒業の私は、とつくに東京都内の会社に内定をもらい、本来なら希望に胸を膨らませ社会人一年生として頑張る「はず」でした。「はず」というのは、その前の年の冬、父の具合が悪くなり急遽帰省したことにより、私の人生は一転することになりました。長男の私は、結局内定先にはお断りを入れ、地元秋田で就職先を探すことに。既に就職戦線は終わっており、父が昔、手広く商売をしていた伝手で、とある理事長にお願いにありました。今



95歳のお誕生日の母を囲んだ家族4世代

はもう時期が遅いが、来年度の事務に雇ってやるから、一年間どこかで繋ぎなさいと言ってもらえました。このときに、できたばかりの保険会社の新大卒研修生制度が目にとまり、研修期間が14カ月という、繋ぎにはもってこいの制度に飛び込みました。

私の故郷は秋田市より北に一時間ほどの能代市という港町。右も左も分らない初めての秋田市で、

がむしやらに
社会人をやっ
てみました。
頭のなかは
「繋ぎ」だと言
い聞かせる自
分がいました
が、徐々に私
を信じて高い
保険料を払っ
てくださるお
客さまが増え
るにつけ、や
はり商売人の

息子に生まれて、父の背中を見ていた商いの血が騒いだのでしよう。ずっと父の敷いたレールを走っていた自分を、自分自身で新しいレールに乗り換える、その背中を押したに違いありません。木々が色づき始める頃、お願いにお邪魔した理事長や、父に対して断りの報告と、自分の気持ちを正直に話しました。この時期に断ることによって、きつとたくさんの方々にご迷惑をお掛けするんだと、済まない気持ちでいっぱいになりましたが、二人ともに「あなたの人生はあなたのもの。あなたが決めたらいい。」と思ってもせぬ言葉を掛けてもらい、目頭が熱くなったことを今でも鮮明に覚えています。

この街で育ったわけでも、学校に通ったわけでもないで、まず友人・知人がいません。だから、開き直り、給料をもらう研修期間は、とにかく「人」を覚える、覚えてもらうことに徹しました。おかげで卒業時には、同期75人中11位で、たくさんのお客さまもできました。で、実はこの卒業式が私の2度目のターニングポイントになったと思っています。社長出席の式典で直々に卒業証書を手渡されるのは、前列に座ったたった10人だけ。11位の私は座ったまま、

悔しさ、後悔、無念でいっぱい、握りこぶしを強く握りしめておりました。今思い返してみると、このときの気持ちがあったので、知らない土地でも、たくさんの友人・知人もでき、この地元で半世紀近くも仕事を続けさせてもらっているのではないかと思います。ピンチはチャンスに。悔しさはバネに。おかげで従業員の数も増え、別の場所に第2営業部を開設するまでになりました。30歳で業界団体の専務理事に就任。その後十数年、副会長を務めました。現在、本社・第一営業部・第二営業部で、損害保険2社、生命



実は秋田県カーリング協会事務局長



20代から始めたバイクは今も健在

り、たくさんの方々の集まりにも参加して、もうすっかりと秋田市の商人あきんどになってしまいました。私たちが商売させていたでいる保険という名の商品は、目に見えるものではなく、何かあったときにしかその効力は表れません。人それぞれに抱えている不安・心配は大きさも形もみな違います。私たちはその器に、こぼれないほどの「安心」というお水を上手に注がなくては いけません。当社のCMをご紹介します。

保険4社の総合保険代理業を営んでおります。他にホームページ制作・印刷物・販売促進等・ステッカー・企画など薄利多売でお客さまのニーズに寄り添わせていただいております。

住んだことのない街に住み始めて早48年目。もはや生まれ故郷よりも道々に精通し、たくさんの方々とは友達にな

「雨が降る前に傘を差してどうするんだ？」

そう言って笑う方もおります。でも、わたし達はそういうことをお勧めする仕事なんです。

この街を、この街の人を、この傘で守りたい
「アキタエーージェンシー」

そんな思いで、お客さまと接して来たら、もうこんなにも時が過ぎていきました。この傘の中にも、たくさんのお客さまに入っていました。たくさんのお客さまをお守りしてきました。何かあったとき、私の顔が浮かぶ…そんなお客さまも数千人になり、年間数億という皆さんの大切な保険料を預かる責任に引き締めて、日々活動させていただいております。保険というのは、今の生活を「質」に置いてまで掛けるものではありません。ほどよい掛け金で当社とお付き合いいただけるだけで、その日常を安心して過ごしていただければ、保険屋冥利に尽きます。「人間万事塞翁が馬」、人生の幸不幸なんて予想できません。一見不幸な出来事も、後になってみれば幸福につながったりします。これからは肩から力を抜いて、自然体でいきたいものです。

これだけ長く秋田市で商いさせていただくと、当然たくさんの方の集まりからお声が掛かります。先日、会費を払っている団体の数を数えてみて、気を失いそうになりました(笑)実に11団体ありました。歳も歳だし、そろそろ抜けてみようと思うのですが、体力気力がまだあるうちは、地元に恩返しのできる気持ちで、もう少し頑張ってみようと思います。

